

特定非営利活動法人

フリースクール全国ネットワーク

2014 年度活動報告書

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク

〒114-0021

東京都北区岸町 1-9-19 コーエイビル

TEL&FAX : 03 - 5924 - 0525

2014年度は、国のフリースクール支援政策が大きく動き、未来へ向けて希望を感じられる一年となりました。当ネットワーク加盟団体にも総理大臣、文科大臣、フリースクール等議員連盟が視察・見学に訪れ、11月におこなわれたフリースクール等フォーラムの実践発表や、2015年1月からのフリースクールに関する検討会議の委員にも選ばれました。それぞれの機会を通じ、JDEC や夏の全国大会等を通じて共有してきた実践や理念や、「フリースクールからの政策提言」「子どもの多様な学びの機会を保障する法律（骨子案）」の制作等を通じて検討してきた求めるべき支援のあり方を発言することができ、これまで積み重ねてきた活動の成果を十分に発揮できた一年と言えます。

個々の事業についても、それぞれ各地のフリースクールのスタッフ、会員、保護者の皆様の協力を得ながら充実した活動をおこなうことができました。

7月末から8月頭にかけての IDEC2014 韓国大会への参加ツアーは 27名の参加を得て韓国、世界のデモクラティック教育の関係者と大いに交流しました。

夏の全国大会は8月末、埼玉県さいたま市で 25 回目の記念大会を開催、2013 年度の開催地でもある大阪からも企画が持ち込まれる等、大人プログラム、子どもプログラムともに充実した内容となりました。

2015年1月に開催した JDEC、フリースクールスタッフ養成研修は、昨年度に引き続き多くの加盟団体に実践報告をしていただく事を意識して開催、盛会となりました。フリースクール等のスタッフが参加しやすい時期、大学生等が参加しやすい時期にずれもあり、ふたつの企画を同時に実施することの難しさが課題となりましたが、JDEC ミーティングでは今後の JDEC のあり方についても活発に議論が交わされ、さらなる改善に向けた手がかりを得ることができました。

また9月の神戸でのスタッフ養成研修講座、ふくしまの子ども支援協議会の事務局受託等も通じ、事業の拡大だけでなく、各地のフリースクール等を訪れる機会も多く持てた1年でした、今後も新たな事業の展開や各地での研修・集会等への参加を通じ、各地のフリースクールとつながり、顔の見える関係づくりを進めていきたいと考えています

A. 運営に関する事項

(I) 主な会議の開催

- ①総会の開催 : 2014年6月22日 於・東京シェーレ王子
- ②理事会の開催 : 2014年6月22日(東京)、6月22日(東京・代表理事の選出)
11月22日(東京)、2015年1月12日(東京) 計4回開催
- ③事務局会議 : 毎月1回定例開催
- ④その他 : 多様な学び保障法を実現する会運営会議を月1回開催、同事務局会議、役員会、各種実行委員会を適宜開催、2013年度にひきつづき、ふくしまの子ども支援協議会事務局を受託

(II) 会員状況(2015年3月31日現在)

- ①正会員 : 44団体
- ②支援会員 : 58団体名
- ③会員状況 : 正会員は4団体入会したが、退会・支援会員への変更も3団体あり、1団体の増加にとどまった。

(Ⅲ) 基盤整備について

- ・ 事業規模の拡大、国のフリースクール・不登校政策の動き等に伴い事務局の業務量が大幅に増加したことに合わせ、フリースクールフェスティバル等の助成金事業については事務局アルバイトを雇用し事業を実施した。また、2015年2月より週一回（半日）、ボランティアを受け入れることとなった。
- ・ 厚生年金、健康保険組合への加入など、有給職員に対する社会保障の充実を図った。
- ・ 例年東京で開催する養成研修に加え、新規事業としてフリースクールスタッフ養成・研修講座 in 関西を実施、関西圏を中心に46名が参加、2015年以降も同様の事業を継続していく基盤ができた。

(Ⅳ) 事務局の体制

開室： 毎週平日 9：30～18：00

職員体制： 事務局長 1名 松島裕之（有給・常勤）

事務局員 5名 朝倉景樹、安美留久見子、力石みのり、
中村国生、藤田岳幸 適時協力

※事務局会議は、上記のメンバーと奥地圭子、江川和弥両代表理事の出席の下で行った。

(Ⅴ) 他機関との関係

- ① 登校拒否・不登校を考える夏の全国大会 in 浦和を、NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク、関東圏のフリースクール、不登校の親の会等からなる現地実行委員会と協力して開催した。
- ② 寺子屋方丈舎、ビーンズふくしま、チャイルドラインこおりやまの3団体からなる「ふくしまの子ども支援協議会」の事務局業務を受託。また、事業実施に際し、関東以北の複数の加盟フリースクールからもスタッフ派遣の協力を得た。
- ③ 多様な学び保障法を実現する会の運営を通じ、シュタイナースクール、サドベリースクール、ブラジル学校、インターナショナルスクール等の実践者ともつながりを深める事ができた。
- ④ 関西圏の加盟フリースクール、ふりー！すくーりんぐとの共催でフリースクールスタッフ養成・研修講座 in 関西を開催した。
- ⑤ フリースクールフェスティバル 2014 を加盟フリースクールと協力して開催した。

助成金	日韓文化交流基金（IDEC2014in 韓国ツアー 100万円） 独立行政法人福祉医療機構（フリースクールフェスティバル 95.8万円）
委託事業	文部科学省（いじめ対策等生徒指導推進事業 51万円）
寄附金	ジャパングビング プレジャーワークス（BOOK 募金） 他、個人多数

B. 事業および活動に関する事項

(I) ネットワーキング事業

① 第7回JDEC（日本フリースクール大会）の開催

今年で7回目を迎えるJDEC（日本フリースクール大会）は、国のフリースクール支援の動きに対応し、国のフリースクール支援をテーマとしたパネルディスカッションを開催、中村国生さん（東京シューレ/多様法を実現する会）、西野博之さん（フリースペースたまりば）、吉田敦彦さん（京田辺シュタイナー学校/大阪府立大学）に加え、文部科学省のフリースクール担当官、亀田徹さんをパネラーにお招きした。

また、文部科学省より委託を受けたいじめた策等生徒指導推進事業の実践交流もかね、多くのフリースクール等の団体に実践報告をしていただき、持ち込み分科会も実施するなど、多くの加盟団体の協力を得て開催することができたことも、第7回JDECの特徴と言える。

開催日	2015年1月10日～11日
参加人数	123名
開催場所	東京都渋谷区 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加団体	札幌自由が丘学園、漂流教室、寺子屋方丈舎、ビーンズふくしま、フリースクール青い空、りんごの木、ネモネット、フリースクールJAT、文化学習協同ネットワーク、僕んち、東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、子どもサポートチームすわ、三重シューレ、アウラ学びの森、聖母の小さな学校、みなも、ラヴニール、近畿自由学院、結空間、ふおーらいふ、ヒューマン・ハーバー、クレイン・ハーバー、箱崎自由学舎えすぺらんさ。他、会員外フリースクール等9団体、合計33団体

② ふくしまの子ども支援協議会 事務局受託

2013年度にひきつづき、ふくしまの子ども支援協議会の事務局を受託。震災以後に採用された若手スタッフの育成を、各地のフリースクールスタッフの助力を得ながら行った（電話、スカイプによるメンタリング、集合研修、訪問研修等）。当ネットワークは支援スタッフのコーディネート、および研修記録の取りまとめを担当した。

構成団体	寺子屋方丈舎、ビーンズふくしま、チャイルドラインこおりやま、チャイルドラインふくしま ※協議会の設置、若手スタッフの育成
協力団体	STOP!いじめナビ、フリースクール全国ネットワーク ※研修プログラムの作成、実施 漂流教室、りんごの木、東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、with優、ねおす（北海道）、ぷらっとほーむ（山形）、チャイルドライン支援センター ※メンターの派遣、訪問研修の受け入れ

③ 不登校の児童生徒等の学習権保障及び社会的自立の支援技術の共有・普及のための実践交流会議の開催

文部科学省「いじめ対策等生徒指導推進事業」の委託を受け、フリースクールでの不登校の子ども支援活動の内容を可視化するための「実践交流会議」を開催、その内容を文書化して一冊の報告書にとりまとめ、ホームページ等で公開した。「実践交流会議」は

当ネットワーク総会や JDEC にタイミングを合わせて開催し、特に遠方の加盟団体にとっても交通費等の負担が少なくなるよう留意し、結果「実践交流会議」そのものも、総会や JDEC にも多くの加盟団体に参加してもらえる結果となった。

④ フリースクール設立・運営支援

2014 年度は、学習塾などからフリースクールへの転身を図ろうとする団体からの問い合わせが多くあった他、個人からの問い合わせの中にも進級・卒業に関する事柄などの相談が多く見られた。

⑤ 情報発信

- ・文部科学省の主催する「フリースクール等に関する検討会議」「不登校に関する調査研究協力者会議」の二つの会議を毎回傍聴、会員向けに簡易な記録メモと当日配布資料を発信した。
- ・ニュースレターを 3 回発行し、団体の活動を季節ごとにまとめ、報告。会員団体に加え、近隣の NPO センター等にも配布した。
- ・フリースクールフェスティバルや JDEC 等の機会を活用し、全国の大学や会員外フリースクールやオルタナティブ教育機関にニュースレターやリーフレットを送付した。

(II) 交流イベント事業

① 不登校・登校拒否を考える夏の全国大会の開催

NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワークとの共催で、埼玉県さいたま市にて開催。子ども交流合宿の実行委員会には事務局も毎回参加、関東圏のフリースクールだけでなく、昨年度（宝塚大会）の盛り上がりが継続し、大阪からも卓球大会の企画が持ち込まれるなど、大きな盛り上がりとなった。

なお、2014 年度大会は大人プログラム（教育研究者の大田堯さんの講演、当事者、保護者のシンポジウム等）を中心とした記録集をすることが決定、2015 年度山口大会等での頒布を目標に制作中である。

開催日	2014 年 8 月 30 日～31 日
参加人数	約 460 名
開催場所	埼玉県さいたま市 市民会館うらわ（メイン会場） 浦和ロイヤルパインズホテル（宿泊）
参加団体	札幌自由ヶ丘学園、スクールサポートネットワーク、寺子屋方丈舎、アトリエ・ゆう、りんごの木、東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、僕んち、三重シューレ、フォロ、みなも、ラヴニール、結空間、ふおーらいふ、木のねっこ、ハッピービバーク、他不登校の親の会、加盟外フリースクール等多数。

② フリースクールフェスティバル 2014 の開催

独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、フリースクールフェスティバル 2014 を開催した。例年通り子ども実行委員会を中心としたプログラムに加え、skype を活用して遠方のフリースクールの様子もライブで見られる子どもシンポジウム、フリースクールや不登校に関する無料相談コーナー、フリースクールに通う子どもが相談の受け手となる

「子どもそうだんコーナー」、文部科学省フリースクール等担当官をお招きしての意見交換会をおこなうなど、盛りだくさんの内容となり、例年に比べ、フリースクール等の運営者や研究者、マスコミ関係者などの参加が多いフェスティバルとなった。

また、開催経費の不足分、実行委員交通費などの助成対象外経費の充当のため、模擬店、カフェなども多数開店、フリースクールの子どもやスタッフだけでなく、たくさんの保護者の協力も得ることができた。

なお、東京以外の地域で開催するフェスティバルについては、助成金申請前に（当ネットワークが獲得した助成金での）フェスティバル開催の意向を聞いたが、手が上がらなかったため、助成金申請の段階から東京のみでの開催を計画した。同様のフェスティバルは各地のフリースクールが独自に資金を獲得して開催されており、各地のフリースクールの活動基盤が整ってきたと前向きにとらえている。

開催日	2014年11月22日
参加人数	約550名
開催場所	東京都葛飾区 東京シューレ葛飾中学校
参加団体	参加団体数：17 団体（当日来場しての活動紹介など） 30 団体（ポスター展示など） 実行委員会参加団体 東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、りんごの木、ネモネット
助成	独立行政法人福祉医療機構

（Ⅲ）研修事業

① フリースクールスタッフ「研修・養成」講座の開催

第7回JDECと連携して、フリースクールスタッフ養成・研修講座を開催した。例年好評の初心者・学生向けのプログラムに加え、経験者編は「他のフリースクールではどうなの？」と題した参加者同士の実践交流を実施、貧困をテーマとした分科会や、参加者からの意見をもとに進める「フリースクールの未来を語ろう」など新たな試みも行い充実したプログラムとなった。しかし、アンケート結果からは「JDECとの違いが解りにくい」「(大学のテスト期間と重なったため)参加がしにくい」など、JDECと同時開催することの難しさも示す回答も見受けられ、今後の検討課題となった。

開催日	2015年1月11日～12日
参加人数	73名
開催場所	東京都渋谷区 国立オリンピック記念青少年総合センター

② フリースクールスタッフ「研修・養成」講座 in 関西の開催

当ネットワークの収支改善と、関東圏以外のフリースクールのスタッフ、フリースクール等で働くことを志す人にも参加をしてもらいやすいよう、兵庫県神戸市にてフリースクールスタッフ養成・研修講座を開催した。開催にあたっては現地のネットワーク加盟団体に加え、関西圏のフリースクール等のネットワーク「ふりー！すくーりんぐ」の協力も得ることができ参加者は46名となった、学生とFS等関係者、塾等で働く人が中心、約半数が初めて当ネットワーク関連のイベントに参加する人であり、意義のある事業となった。

開催日	2014年9月21日
参加人数	46名
開催場所	兵庫県神戸市 こうべまちづくり会館
共催団体	ふりー！すくーりんぐ

(IV) 国際交流事業

① IDEC（世界フリースクール大会） in 韓国 2014 参加ツアーの開催

IDEC2014の韓国開催に合わせ、韓国の代案学校（オルタナティブ学校）訪問とIDECへの参加をセットにしたツアーを開催した。ツアーにはフリースクールの会員、スタッフ、OBOG、保護者等27名が参加。韓国の代案学校制度を学び、いじめ、過度な学力（受験）競争、就職難・経済不安からくる若者の生きづらさなど、日本とも共通する課題についてともに考え、またIDECでは「民主的な教育」「子ども中心の学び」という切り口から来るべき未来のあり方を考えることのできる有意義なツアーとなった。

開催日	2014年7月25日～8月3日
参加人数	27名
訪問先	ハジャセンター（社会的企業のインキュベーションセンター）、ソンミサンスクール（地域に根ざしたオルタナティブスクール）、サランサランスクール（認可型特性化学校）、ビューティフルスクール（非認可オルタナティブスクール）、IDEC（世界フリースクール大会）2014
助成	日韓文化交流基金

(V) 調査研究・政策提言事業

① 国・政府のフリースクール支援検討への対応

2014年夏頃より、国がフリースクールへの公的支援を検討を開始するとの報道がなされ、11月24日の「フリースクール等フォーラム」を皮切りに、本格的に支援検討の動きが始まった。フリースクール全国ネットワークとしては、それぞれのタイミングに合わせ独自のフォーラムを開催する等、フリースクール等の関係者、不登校の子ども自身やその保護者が文科省に意見を伝え、また文科省からの説明をじかに聞けるタイミングを作るとともに、国の検討会議を傍聴、その報告をおこなってきた。

また、2014年11月のフリースクール等フォーラムでの実践報告に中村尊（理事/クレイン・ハーバー）、2015年1月よりスタートした「フリースクール等検討会議」には奥地圭子（代表理事/東京シューレ）、西野博之さん（フリースペースたまりば）が選任された。

② 超党派フリースクール等議員連盟を通じた環境・制度整備の推進

2014年6月3日に設立された、超党派フリースクール等議員連盟を通じたフリースクールの環境・制度整備を訴えた。国のフリースクール等支援政策検討が進むにつれ、議員連盟の動きは一時下火となったが、4月14日議連幹事長の馳浩議員が自身の公式ブログで「普通教育支援法（仮称）」の議員立法について言及、「（仮）多様な学び保障法」と重なる内容も見受けられる等、これまでの取り組みが実りつつある。

- ③ 「すぐにでもできる 9 の提言」の実現に向けての取り組み
「(仮) 多様な学び保障法」の実現にはまだまだ時間がかかるとの判断から、同時並行で「すぐにでもできる 9 の提言」にの實現についてもフリースクール等議員連盟に訴えてきたが、「9 の提言」よりも「(仮) 多様な学び保障法」の方が注目され、議員立法のとりくみが先に動く結果となった。
- ④ フリースクールの状況把握のための経年調査
フリースクールの活動や財政状況などについてフリースクール全国ネットワークの参加団体を対象に毎年行っているフリースクール基本調査を 2014 年 12 月から 2015 年 1 月にかけて行い、45 団体、49 活動場所からの回答を得た。
フリースクール等に関する統計データは当ネットワーク以外どこも持っておらず、その価値は高いが、回答件数は 50 件に満たず、加盟団体数自体を増やしつつ、同時に回答率も上げていく必要がある。

(VI) 各団体の組織基盤整備とファンドレイズ事業

一般社団法人チャンス・フォー・チルドレンを迎え、フリースクール等を利用するための「奨学金制度」についての検討をおこなった。